

令和7年度 長吉西中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【＝Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)			平均IRTスコア
			国語	数学	国語	数学		理科
3 年 4月17日	学校	216	44	33	12.1	18.7	学校	431
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	大阪市	489
	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。
この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。
※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンから学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3 年 4月17日	学校	—	54.3	41.7	44.8	35.7	43.2	9.8	8.9	15.4	15.5	10.2
	大阪市	—										
	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4

※ 3年生の理科はB問題を選択

令和7年度 長吉西中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】と【今後に向けて】
○全国学力・学習状況調査結果
国語 「書くこと」の領域において、貴校は39.2％で、大阪府（50.5％）を下回った。文章の構成や根拠を明確にする記述力が課題である。一方、「読むこと」は52.8％で、比較的高い正答率を示しており、読解力は一定の強みといえる。また「読むこと」で一定の成果が見られ、資料を読み取り内容を把握する力は育っている。
数学 「関数」の領域において、貴校は32.7％で、大阪府（46.3％）、全国（48.2％）を大きく下回った。関数のグラフや表、式の間を関係を理解する力に課題がある。一方、「図形」では33.3％と、関数よりは高く、基礎的理解は一定程度見られる。また「図形」において、視覚的な情報を基に考える力が見られる。
国語:「書くこと」について、段落構成を意識した文章作成や根拠を明確に述べる練習を取り入れる。短い文章から始め、意見と理由を結び付ける活動を継続する。
数学:「関数」について、表・グラフ・式を関連付ける活動や身近な事象を題材とした関数問題を取り入れ、理解を深める。ICTを活用し、動的なグラフ表示で概念をつかませる。
○ 令和7年度 中学生チャレンジテスト（3年生）
国語 ＜成果＞平均点は大阪府と比較して、9.9点下回りました（本校 54.3点、大阪府 64.2点）。 ＜課題＞国語科において、「読むこと」の区分、特に、文章の論理構造を深く理解し、思考・判断・表現する設問では、多くの生徒が解答を完成させるまでには至っていません。今後は、読解力と記述力向上への対策にも注力します。
社会 ＜成果＞平均点は大阪府と比較して、9.5点下回りました（本校 41.7点、大阪府 51.2点）。 ＜課題＞社会科において、資料を読み解き、論理的に考察して表現する力を大きく伸ばす必要があります。特に、地理分野の応用的な記述問題では、複合的な情報を活用し、論理立てて説明する学習に重点を置くことで、より高い成果を目指します。
数学 ＜成果＞平均点は大阪府と比較して、9.1点下回りました（本校 44.8点、大阪府 53.9点）。 ＜課題＞数学科において、身につけた知識を使って問題を深く考察し、筋道立てて表現する力（思考・判断・表現）を強化します。特に「データの活用」分野の応用問題では、解答に挑戦する生徒が少なく、問題解決に対する積極的な姿勢と、考察を数理的に言語化する学習を進めます。
理科 ＜成果＞平均点は大阪府と比較して、10.3点下回り、全教科の中で大阪府平均と最も大きな差となりました（本校 35.7点、大阪府 46.0点）。 ＜課題＞理科において、平均点そのものの全体的な底上げが最優先の課題です。基本的な問題や、実験結果を論理的に解釈する思考力に注力します。今後は科学的な探求意欲をも喚起し、難しい設問にも粘り強く解答を試みる学習習慣を確立していきます。
英語 ＜成果＞平均点は大阪府と比較して、10.0点下回りました（本校 43.2点、大阪府 53.2点）。 ＜課題＞英語科において、自らの考えを英語で表現する「書く力」表現豊かな英文を作成するトレーニングを重点的に進めることで、「書くこと」の区分で、大阪府との差を縮めることを目指します。

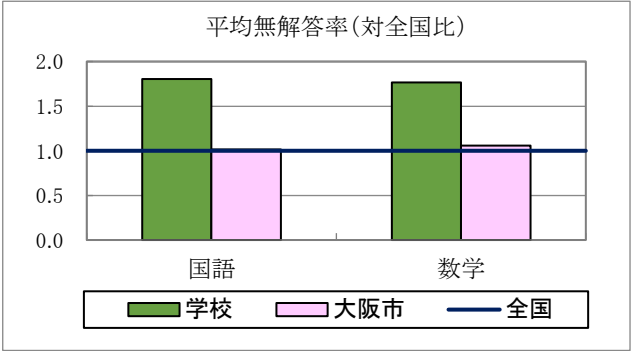
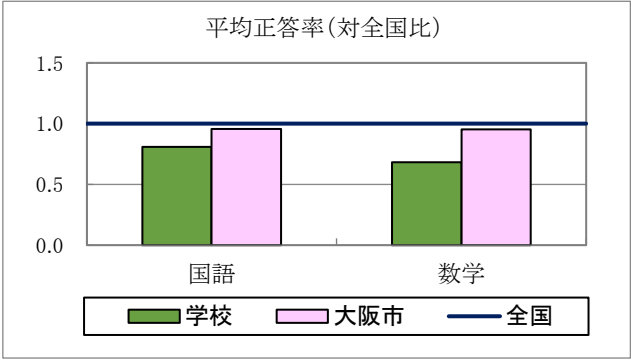
令和7年度 長吉西中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	44	33
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

平均無解答率(%)	
国語	数学
12.1	18.7
6.8	11.2
6.7	10.6

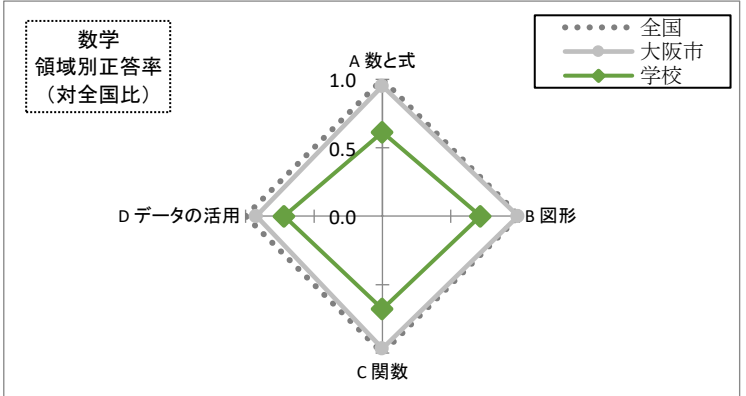
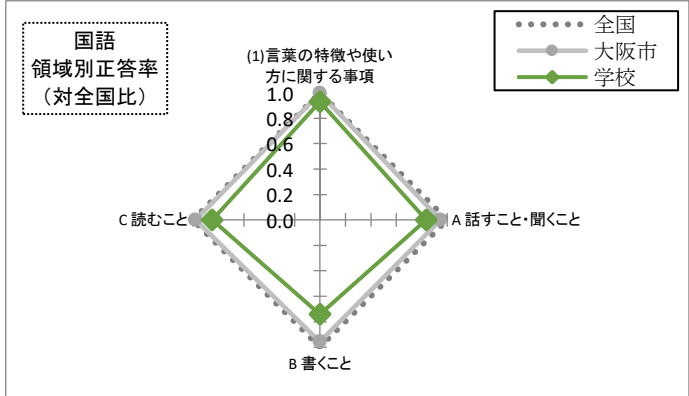
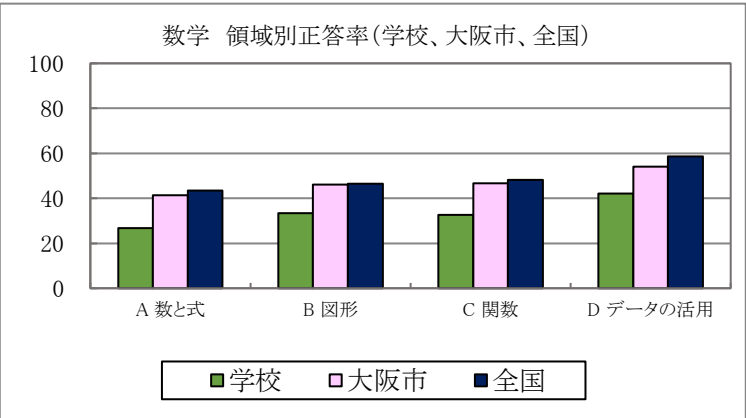
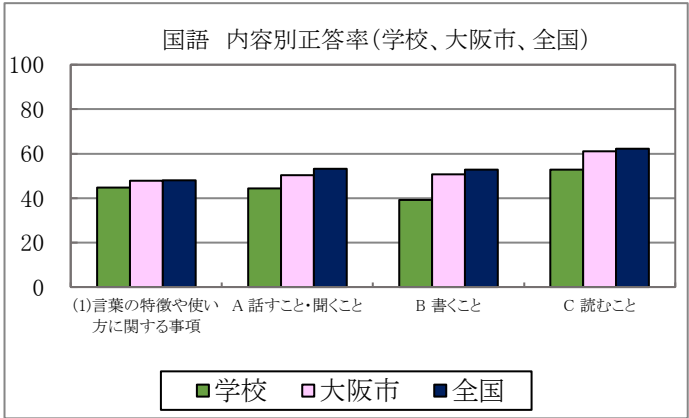


【 国 語 】

学習指導要領の 内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	44.7	47.9	48.1
(2)情報の扱い方に 関する事項	0			
(3)我が国の言語文化 に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	44.4	50.4	53.2
B 書くこと	5	39.2	50.6	52.8
C 読むこと	3	52.8	61.0	62.3

【 数 学 】

学習指導要領の 領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	26.7	41.4	43.5
B 図形	4	33.3	46.1	46.5
C 関数	3	32.7	46.6	48.2
D データの活用	3	42.1	54.0	58.6

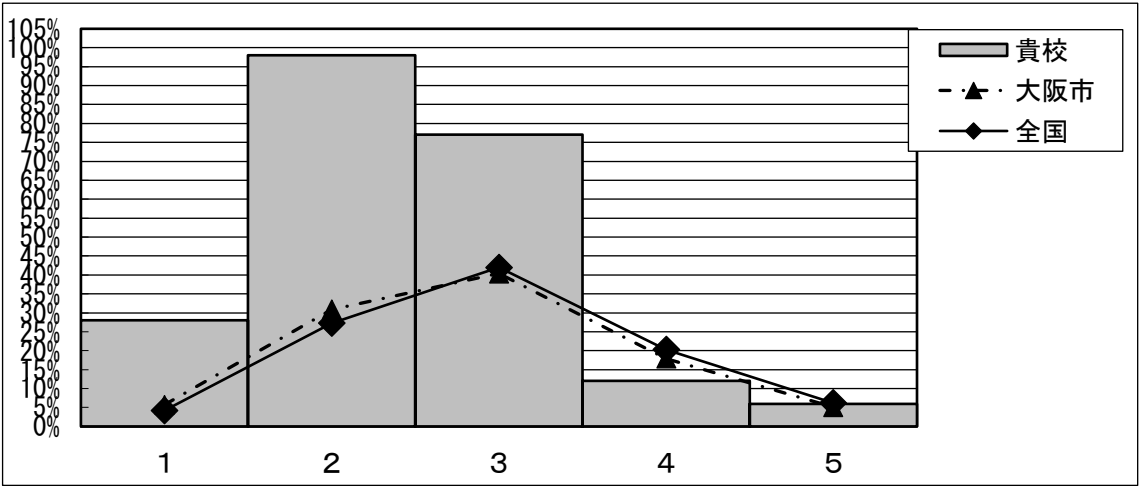
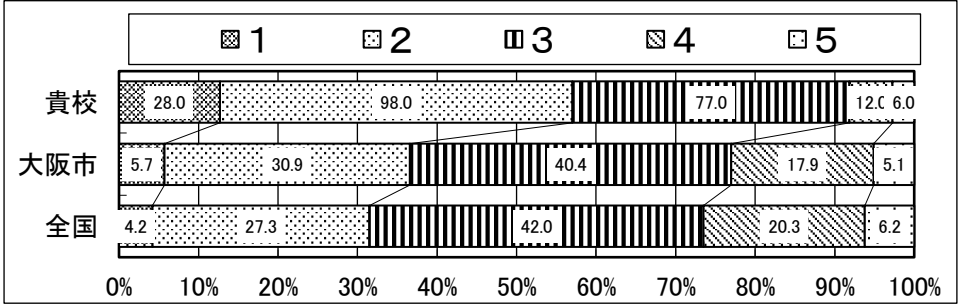


令和7年度 長吉西中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理 科】

	平均IRTスコア
学校	431
大阪市	489
全国	503



令和7年度 長吉西中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

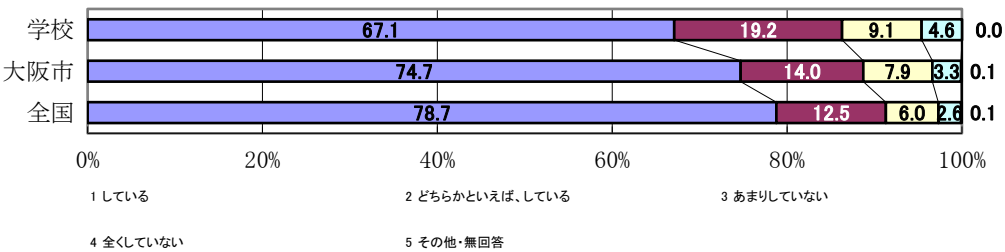
生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

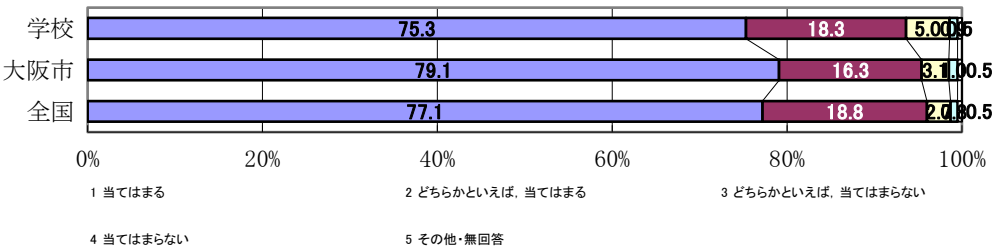
1

朝食を毎日食べていますか



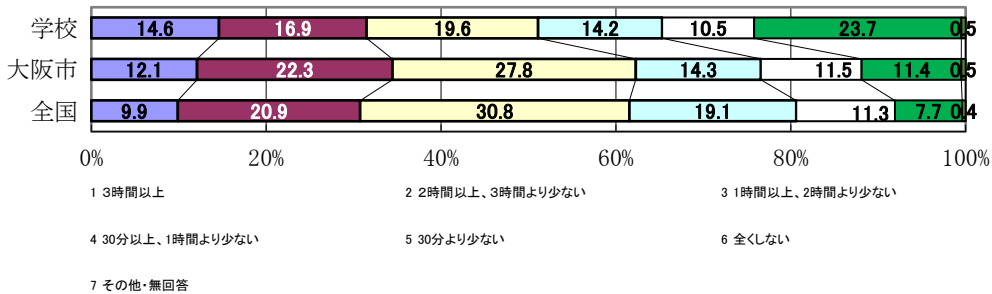
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



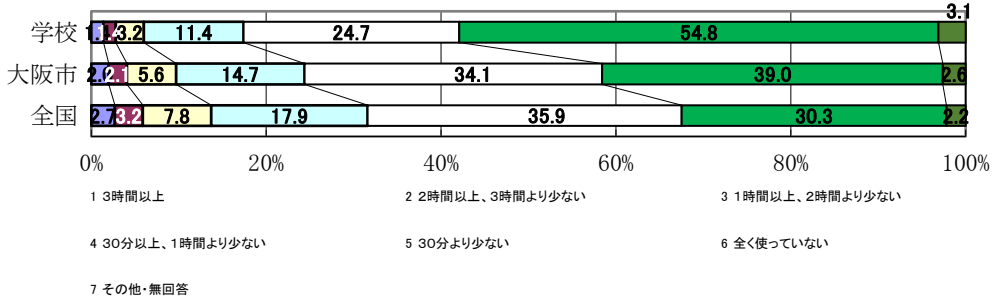
17

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



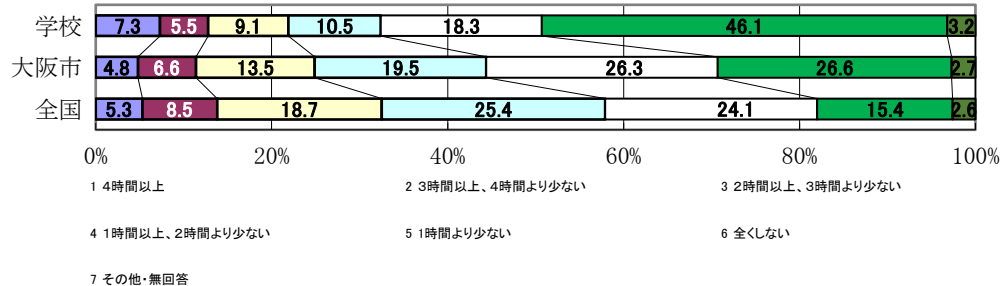
18

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(遊びなどの目的に使う時間は除く)



19

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



令和7年度 長吉西中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

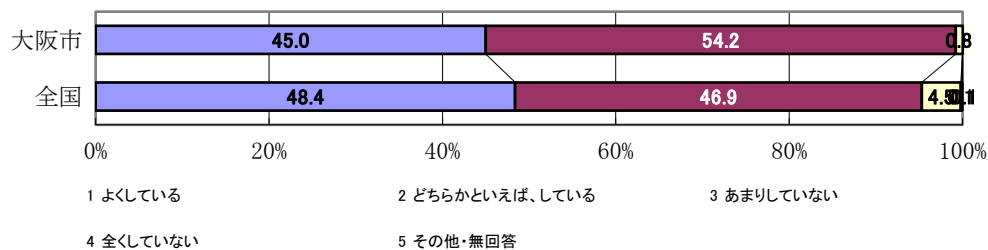
質問番号

質問事項

18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

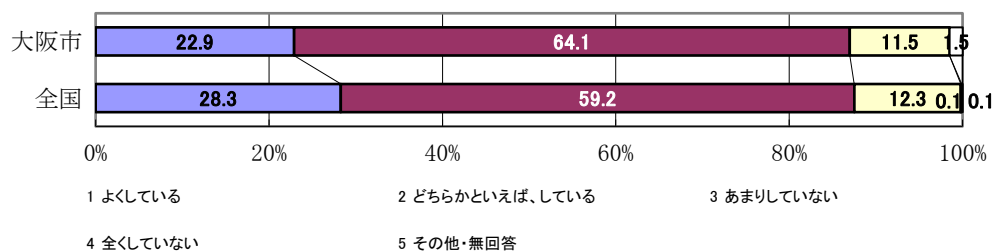
学校 「よくしている」を選択



19

個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか(オンラインでの参加を含む)

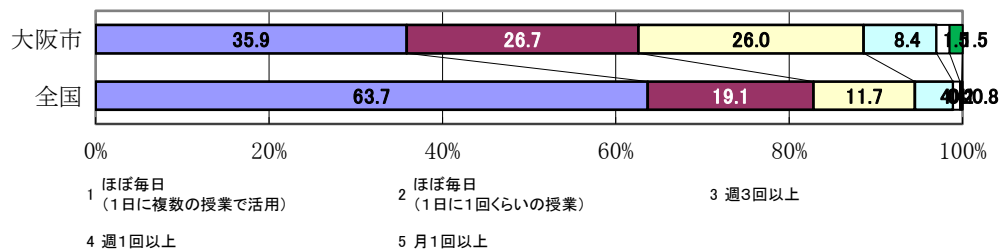
学校 「どちらかといえば、している」を選択



58

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

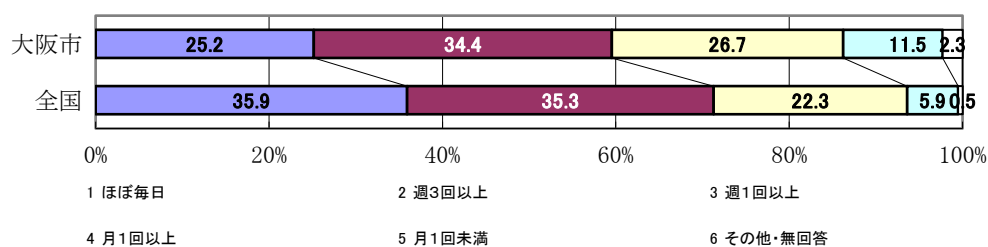
学校 「ほぼ毎日(1日に1回くらいの授業)」を選択



59

調査対象学年の生徒が自分で調べる場面(ウェブブラウザによるインターネット検索等)では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

学校 「週3回以上」を選択



66

生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか

学校 「毎日持ち帰って、毎日利用させている」を選択

